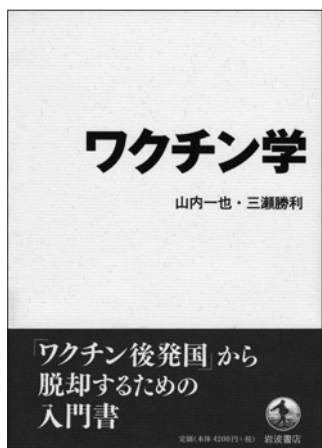


B O O K



『ワクチン学』

著者

山内一也 (東京大学名誉教授)

三瀬勝利 ((独)医薬品医療機器総合機構専門委員)

2014年2月27日発行

本書は2014年2月に発行され、最も新しいワクチン学の一般書である。著者の山内先生は北里研究所、国立予防衛生研究所、東大医科研教授、日本生物科学研究所などで勤務され、日本のワクチン学の重鎮である。ワクチンに関する啓発の書物を多数出版され、今回も、同様に多くのワクチンの書物を出版されている医薬品医療機器総合機構の三瀬先生と共著にて読みやすいワクチン学の入門書を書き上げた。

内容は、古典的ワクチンの時代、近代的ウイルス・ワクチンの時代、細菌学の進展と細菌ワクチン、新しいワクチン開発、動物用ワクチン、日本における予防接種の現状と行政の欠陥までの6章で構成されている。一見すると volume が少なく感じるが、その内容は多岐にわたる豊富なものである。さらに一つ一つの章に写真を掲載し、コラムでも多くのエピソードがあり、読者に飽きさせぬよう工夫がされ、ワクチンに関与する仕事をするものにとって読みやすい本である。現在、ワクチンの副反応のみが大きく報道され、世間を騒がせている状況で、いかにワクチンが人類の英知の賜物であり病気を制圧してきたか、その歴史を垣間みる本である。また、過去のことに触れているばかりでなく、癌ワクチン、アルツハイマーワクチン、糖尿病ワクチン、避妊ワクチンなど、ワクチンが将来の医療にかかせないといった期待をいだかせる良書である。感染症分野では、H7N9の出現や、いつ上陸するかわからないエボラ出血熱、風疹の流行、複合性局所疼痛症候群とワクチン接種等多くの課題がワクチン関連において出てきており、ワクチン開発は今後もホットな領域であろう。本書はワクチンに興味のある人に勧められる、著者たちの長年にわたる経験と知恵に基づいた信頼できる一冊である。また、免疫学の面からワクチンは多くの示唆を科学者に与えてきた。こういった点からもワクチンを理解する上で助けになる書である。

東京医科大学小児科 主任教授

河島尚志

発行所：株式会社 岩波書店 電話案内 03-5210-4000

定 価：(本体 4200 円+税)